



平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況

平成 19 年 7 月 23 日

上場会社名 小林製薬株式会社

上場取引所 東・大 1 部

コード番号 4967

URL <http://www.kobayashi.co.jp>

代表者 代表取締役社長 小林 豊

問合せ先責任者 取締役 グループ統括本社本部長 山根 聡

TEL (06)6222-0084

1. 平成 20 年 3 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日)

(1) 連結経営成績

(注) %表示は対前年同四半期増減率

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 1 四半期	62,777	0.2	3,783	4.8	3,148	1.3	2,378	△2.1
19 年 3 月期第 1 四半期	62,668	2.0	3,609	△9.7	3,106	△13.5	2,429	44.6
19 年 3 月期	257,022	—	18,029	—	15,012	—	8,297	—

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
20 年 3 月期第 1 四半期	57 53	57 45
19 年 3 月期第 1 四半期	58 82	58 73
19 年 3 月期	200 77	200 47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20 年 3 月期第 1 四半期	164,585	77,653	45.5	1,810 67
19 年 3 月期第 1 四半期	160,206	70,519	42.2	1,706 88
19 年 3 月期	164,555	77,236	45.2	1,799 87

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20 年 3 月期第 1 四半期	△255	△1,211	△4,694	12,918
19 年 3 月期第 1 四半期	△1,155	2,981	△2,499	23,761
19 年 3 月期	8,833	△11,803	△2,433	19,090

2. 配当の状況

	1 株当たり配当金
	(基準日) 第 1 四半期末
	円 銭
19 年 3 月期第 1 四半期	—
20 年 3 月期第 1 四半期	—

3. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) 【参考】
 (%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
中間期	132,000	1.0	8,300	△9.1	7,200	△10.1	4,000	△18.0	96	72
通期	265,000	3.1	18,500	2.6	16,000	6.6	8,750	5.5	211	58

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績の予想は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の数値と異なる場合があります。

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第 1 四半期のわが国経済は、引き続き企業収益の改善や底堅い個人消費に牽引され、回復基調で推移しておりますが、米国景気の減速や原油価格高騰の長期化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対して新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 1 四半期の売上高は 62,777 百万円（前年同期比 0.2%増）、営業利益 3,783 百万円（同 4.8%増）、経常利益 3,148 百万円（同 1.3%増）となりました。また、当第 1 四半期純利益は 2,378 百万円（同 2.1%減）となりました。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今春に薬用シミケア剤「ケシミンペン」やおりものシート「サラサーティさらりえ」などを発売し、売上拡大に貢献しました。また、おなかの脂肪の分解・燃焼を促す内服薬「ナイトール 85」や女性保健薬「命の母 A」も引き続き順調に推移した結果、売上高は 25,223 百万円と前年同期に比べ 1,714 百万円（7.3%）の増収となりました。利益率の高いカテゴリーの売上伸長や製造原価などのコスト削減を実施した結果、営業利益は 3,892 百万円と前年同期に比べ 534 百万円（15.9%）の増益となりました。なお、昨年 11 月に株式取得しましたヒートマックス社は当期より年間の業績が連結対象となっております。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、注力カテゴリーであるコンタクトケアは市場環境が厳しく苦戦しましたが、虫除け、殺虫剤などの夏物の季節商材や食品が好調に推移した結果、売上高は 42,742 百万円と前年同期に比べ 1,496 百万円（3.6%）の増収となり、営業損失は 167 百万円となりました。

医療関連事業

当事業におきましては、小林メディカルカンパニーで注力している手術室関連、整形外科領域において売上は順調に推移しました。しかし、昨年 11 月に在宅医療ビジネスのシールドヘルスケアセンター 3 社の全株式を譲渡したことから、売上高は 2,453 百万円と前年同期に比べ 1,803 百万円（△42.4%）の減収となり、営業損失は 150 百万円となりました。なお、昨年 11 月に株式取得しました人工呼吸器メーカーのイーベント社は当期より年間の業績が連結対象となっております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第 1 四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して 30 百万円増加しましたが、自己資本が 451 百万円増加したことから、自己資本比率は 45.5%と 0.3 ポイント増加しました。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は 255 百万円となりました。

これは、税金等調整前第 1 四半期純利益 4,251 百万円がありましたが、法人税等の支払額が 4,246 百万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は 1,211 百万円となりました。

これは、営業権譲渡による収入 1,277 百万円がありましたが、有価証券が 1,500 百万円増加したことや固定資産の取得があったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は 4,694 百万円となりました。

これは、短期借入金の返済や配当金の支払い 2,067 百万円があったことなどによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第 1 四半期につきましては、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成 19 年 5 月 14 日に公表いたしました中間期および通期の業績予想は修正しておりません。

※上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はございません。
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用
当第 1 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、前連結会計年度末に関わる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しております。
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更
該当事項はございません。